

信州高遠ボランティア養成研修

1. 趣旨

青少年教育施設のボランティアの役割を理解し、必要な知識・技能を習得する。自然の中で活動する楽しさを味わい、仲間と協働した学びあいから、ボランティア活動に対する意欲を高め、社会に貢献できる人材を育成する。

2. 事業の概要

- (1)期 日 令和8年5月30日(土)5月31日(日)
- (2)参加者 社会人1名 大学生23名 高校生7名 合計31名
※39名申込 キャンセル8名
- (3)日 程

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1日目					集合・受付	開講式	青少年教育施設の現状と運営	昼食休憩	青少年教育(1.5h) ボランティア活動の意義(1.5h) ボランティア活動の技術(4h)				夕食・休憩		入浴・就寝
5/30(土)															
2日目	荷起床	朝のつどい	朝食	身支度・準備	安全管理			昼食休憩	施設におけるボランティア活動		閉会式				
5/31(日)															
	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	

3. 企画運営のポイント

- ・野外教育や環境教育に精通した講師をお招きし、事業の趣旨や当施設の特徴を踏まえた多様な自然体験活動を展開した。
- ・自然の家周辺における危険動植物への知識や技能、対処法を習得できるようなプログラムを組む。
ボランティアの実践的活動で身に付けておくべき知識・技能を習得する時間を増やした。
- ・参加者から先輩ボランティアに向けての質問タイムを通して、ボランティアについて学ぶ時間を設け、ボランティア活動の実際や、その魅力をよりリアルティな温度感をもって発信した。
- ・参加者が毎回集合して指示待ちにならないように、しおりに必要事項を詳細に記載しておく。変更点については、随時インフォメーションを流すように工夫した。
- ・少ない職員で事業を運営できるように、準備や撤収作業の段取りや役割について、綿密に計画を立てる。
- ・大塚製薬工場より講師の方を招き、夏場を中心に起こりえる「熱中症対策と予防」について講義を行っていただいた。
- ・今回の参加者は、大学生だけでなく高校生・大学生・社会人と年代に幅があったため、多くの人と関わりが持てるように、各プログラムでチーム作りをしてコミュニケーション能力を高められるようにした。

4. 参加者の声

- ・ご飯、美味しかったです！ありがとうございました。
- ・とても楽しかったし、貴重な体験でした。ありがとうございました。
- ・すごく楽しかったです。信州大学の皆さんとも関われたため新鮮な生活を送れました。
- ・帰りたくないくらい楽しかったし、身近でも知らなかった自然のことを知れてよかった。
- ・初めて参加しましたがすごくいい会でとても楽しかったです。これからのこういうボランティア活動を楽しみにしています。
- ・とても楽しく、ためになりました！ありがとうございました！
- ・ボランティアについて安全面でも楽しみ方の面でも勉強できることがとてもたくさんありました。今後、ボランティアにたくさん参加して経験を積んで人として成長したいです！頑張ります
- ・今日のボランティアの研修を通して、自分にはないもの、自然を体験することができたのでとても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・とても学びになることが沢山あったというまの 2 日間でした。先輩方からのアドバイスや考えもとてもためになりました。これから不安なこともあります、沢山子どもたちの成長を支え自分も成長出来るように楽しみたいと思います。
- ・すごく楽しかったです！ボランティア行かせていただきます！
- ・とても楽しかったです！すぐ近くに森があって、ご飯が毎回美味しくて、幸せな気持ちになりました。これからもよろしくお願いします！
- ・今までは教育にそこまで興味がなかったが、今回参加してボランティアが面白そうだった。
- ・朝口グハウスからつどいの広場へ向かうとき、虫や鳥の声が沢山聞こえて、朝からとてもいい気分になりました。自然豊かでとてもいい施設だと思います。ありがとうございました。
- ・自然の中での体験をとおして安全管理や子供たちとの楽しみ方など多くのことを学ぶことができました。また今回の研修で最も心に残ったことは星を眺めたことです。自分一人では夜の森に入って星を見る経験はできないと思うし、10分間をあんなにも有意義に心を落ち着かせて過ごしたことはないのですごく私にとって宝物になりました。

5. 事業の様子

<活動の様子>

【青少年施設の役割】



【ボランティア活動の意義】



【ボランティア活動の技術①】



【ボランティア活動の技術②】



【ボランティア活動の技術③】



【安全管理(危険予知)】



【安全管理(熱中症対策)】



【青少年教育施設におけるボランティア活動①】



【青少年教育施設におけるボランティア活動②】



修了式



6. 成果と課題

(1)参加者アンケート結果 ※アンケート回収 30名分（参加者31名/回収率97%）

ボランティア養成研修全体を通して	満足：27名	90%
	やや満足：3名	10%
	やや不満：0名	0%
	不満：0名	0%

(2)成果（○）と課題（●）

○カリキュラム（講義・演習）の単位を完遂するにあたり、スケジュールが過密になりがちだが、参加者の疲労具合を見ながら、適宜講師と打ち合わせを行うことで、弾力的に事業運営することができ、臨機応変かつ柔軟に対応することができた。

○様々なプログラムやグループでの話し合いを通じ、参加者同士や先輩ボランティアとの親交を深めることができた。

○ボランティア活動で感じた苦労話や嬉しかったこと、やりがいについて先輩ボランティアが話したことで、参加者は、親近感や安心感が湧き、ボランティア活動への意欲を示した。

○開催時期については、例年通りにもどしたが問題がなかった。各大学の新生説明会の訪問時期を鑑み、5月下旬に開催することは適切である。

○定員40名で募集に対し、申し込みが39名となった。その後8名のキャンセルもあり31名での実施となった。今年度は、課題となっていた信大説明会に直接出向いて広報を行った。難しい内容の話ではなく“高遠には面白い職員がいるから、楽しそう。やってみようかな”と思ってもらえるように内容を工夫した。これについては、かなり効果的であったように感じた。実際に信大生に話を聞いたところ、説明会が参加のきっかけになった学生が多かった。

●参加者全員が新規ボランティア登録を行った。施設で実施する事業数も減っているため、実践活動の場をなるべく設定し、多くのボランティアが継続的にスキルアップできるような年間計画が必要である。特に今年度の新規登録ボランティアは意欲的に参加者が多いため、申し込んでもボランティアの経験ができないことで、意欲が下がってしまうことが懸念される。

●例年信州大学からの参加者が多くを占めているが、今年度は7名の高校生が参加をしてくれた。近隣の学校によってはボランティア部がある学校もあるので、ピックアップして広報をかけるのも検討していくとよい。

●長野大学からの参加者も少しずつではあるが増えている。機会があれば長野大学へも直接出向いて広報することも検討していきたい。今回参加してくれた3名は「望月少年自然の家」のボランティアであり施設の方の紹介で来てもらった。長野県には本施設を含め青少年施設が3施設あるので連携して、ボランティア活動を行える仕組みを検討していきたい。

●事業アンケートをフォームズで行ったが、名前入力がないため未提出の1名の回収ができなかった。その場での入力を徹底させたい。（○日までに入力しておいては回収が困難）

